

中小企業の景気動向調査

第150回「中小企業の景気動向調査」をお届けいたします。

調査要項

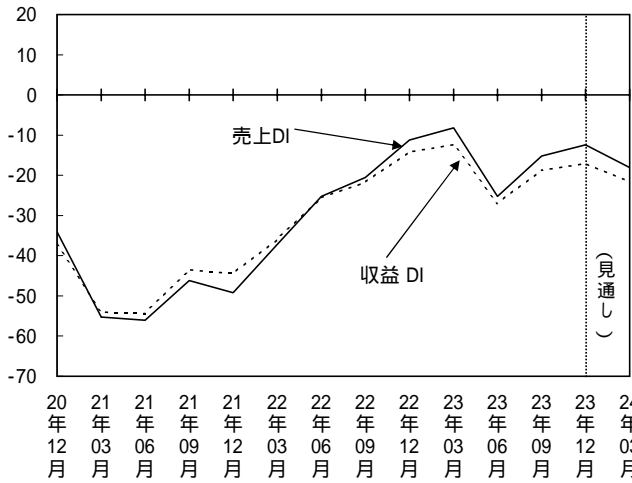
調査時点	平成23年12月上旬
調査対象期間	平成23年10月～12月実績 平成24年1月～3月見通し
調査対象企業	当金庫お取引先1,853社(大阪府下ならびに尼崎市)
回答企業数	1,290社
回答率	69.6%
調査方法	調査票郵送及び聞きとり調査
分析方法	アンケート調査による各質問項目で「増加」したとする企業数が全体に占める構成比と「減少」したとする企業数の構成比との差(DI)を中心にして分析を行いました。

アンケートの内訳

業種別 従業員別	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	サービス業	運輸業	不動産業	計	構成比	累計 構成比
1～4人	55	38	119	56	40	70	3	35	416	32.2%	32.2%
5～10	110	64	24	18	73	52	11	20	372	28.8%	61.1%
11～20	92	23	8	6	41	27	18	5	220	17.1%	78.1%
21～30	40	7	5	12	16	14	16	1	111	8.6%	86.7%
31～50	38	8	7	8	2	9	15	0	87	6.7%	93.5%
51～100	13	4	12	4	6	6	6	0	51	4.0%	97.4%
101～	14	5	3	1	0	8	2	0	33	2.6%	100.0%
計	362	149	178	105	178	186	71	61	1,290	100.0%	
構成比	28.1%	11.6%	13.8%	8.1%	13.8%	14.4%	5.5%	4.7%	100.0%		

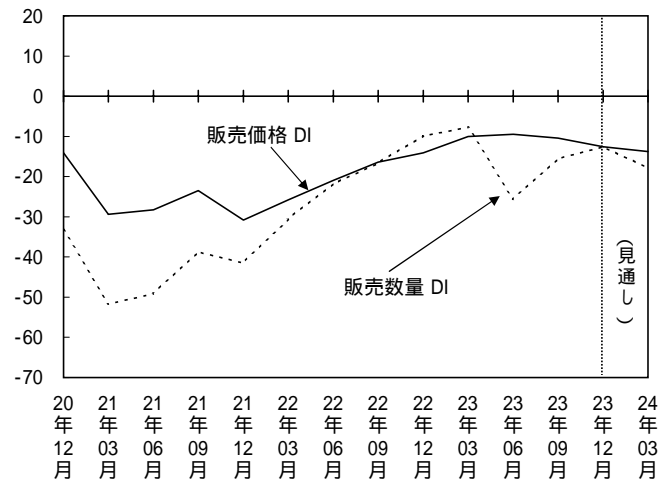
売上・収益ともに回復ペースダウン！ 踊り場入りか！？

【売上受注・収益DIの推移】



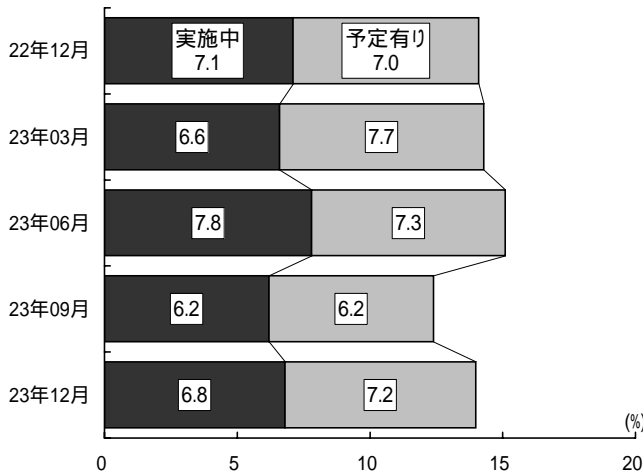
大きい震災による影響
 売上DIはマイナス12.4（前环比+2.8ポイント）、
 収益DIはマイナス17.0（前环比+1.7ポイント）となり、特に売上DIが改善しました。
 平成24年1-3月期は、売上DIで5.7ポイント、収益DIで4.6ポイント下落すると予想しています。
 売上DIは、製造業、卸売業、建設業、サービス業、運輸業で改善し、小売業、飲食業、不動産業で下落しました。売上・収益DIともに回復ペースはダウンしています。
 1-3月期の見通しは、国内需要の低迷、復興計画の遅延、円高、欧州危機、消費税引上げなど様々な問題が山積している今、景気の先行き不透明感が色濃く影を落とし、景気の踊り場入りが懸念されます。

【販売価格・数量DIの推移】



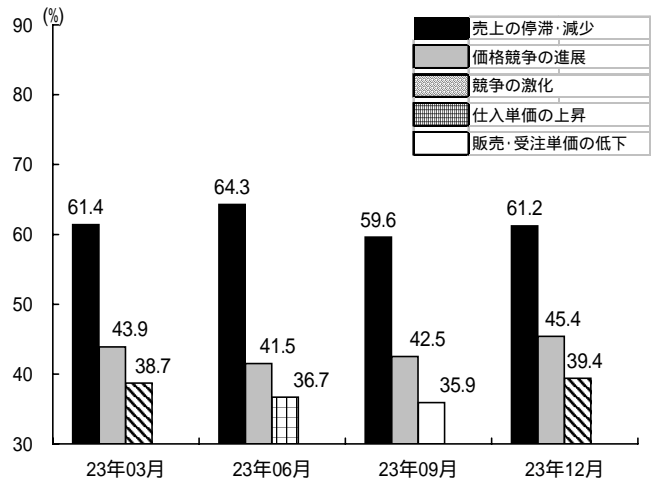
販売数量DIが大きく回復
 販売価格DIはマイナス12.6（前环比-2.2ポイント）、
 販売数量DIはマイナス12.6（前环比+2.9ポイント）となり、販売数量DIが回復しました。
 平成24年1-3月期は、販売価格DIが1.2ポイント、販売数量DIが5.2ポイント下落すると予想しています。
 販売数量DIは改善しましたが、需要が低迷するなか価格競争により販売価格DIは下落し、デフレの進行は止まりません。
 消費者は、インターネットなどで予め価格調査をしてから購入する傾向が強まり、1-3月期の見通しは販売数量でも苦戦が予想されます。

【設備投資】



冷え込む設備投資
 「実施中」は6.8%（前环比+0.6ポイント）、「予定有り」は7.2%（前环比+1.0ポイント）となりました。「実施中」と「予定有り」の合計は14.0%です。
 企業の一部には、設備投資に踏み切る企業もありますが、景気の先行き不透明感が漂うなか、設備投資に慎重な企業が大半で、設備投資意欲が上向くのはもう少し時間がかかりそうです。

【経営上の問題点】（複数回答）



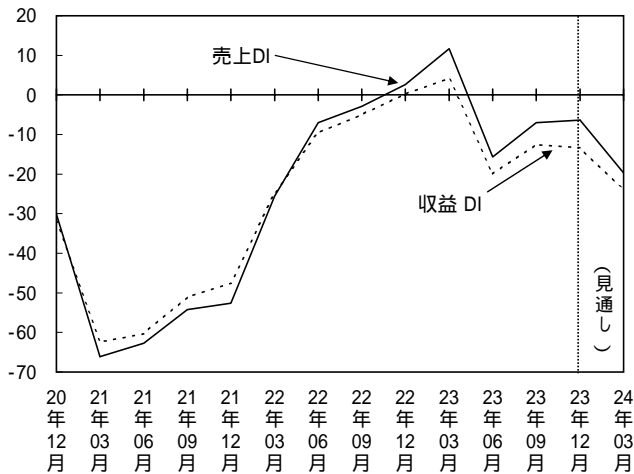
急がれる景気対策
 第一位は「売上の停滞・減少」が61.2%、第二位は「価格競争の進展」が45.4%、第三位は「競争の激化」が39.4%と続きます。
 2012年の見通しは、需要の低迷を背景に売上高の増加や販売価格の上昇はほとんど期待されない一方、仕入価格の上昇を予想する企業は増加傾向にあり、収益性の悪化が懸念されます。各業種内でも、資金繰りが回復に向かう企業とそうでない企業との二極化は進んでいます。
 経営者は不安材料が多く、必要以上に先行きに慎重になりすぎている感もありますが、この不安を払拭するために一刻も早い具体的な景気対策の実施を渴望しています。

（中小企業診断士：平山）

製造業 (362社)

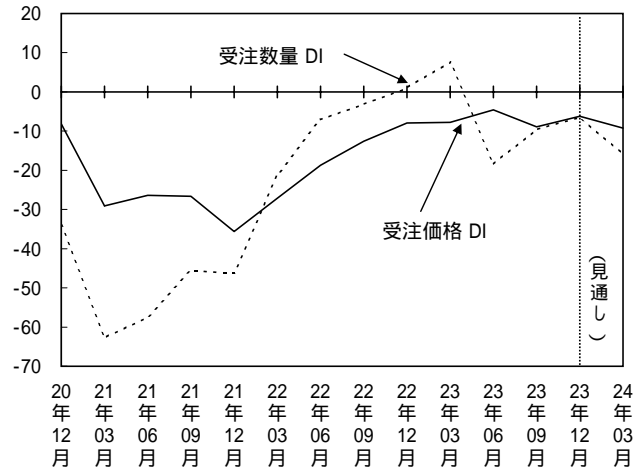
穏やかな回復へ！円高による閉塞感強まる！

【売上受注・収益DIの推移】



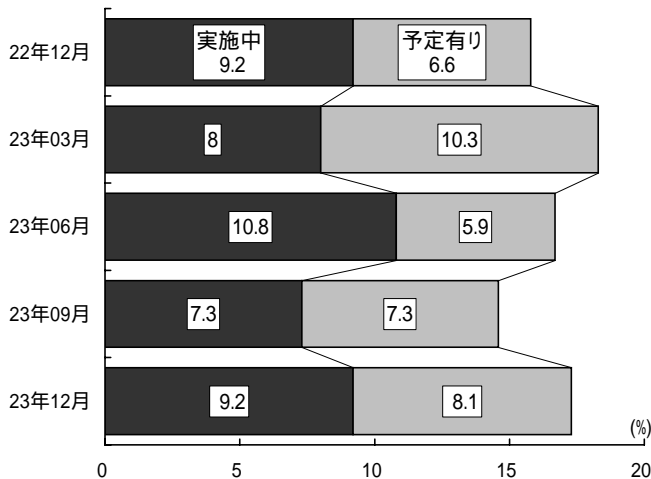
売上DI微増、収益DI下落
 売上DIはマイナス6.4（前回比+0.6ポイント）、収益DIはマイナス13.3（前回比-0.8ポイント）となり、売上DIはやや改善しました。平成24年1-3月期は、売上DIが13.3ポイント、収益DIは10.8ポイント下落すると予想しています。
 震災特需の期待はありますが、受注が伸びている企業は少ないと思われます。また、円高のマイナス影響は製造業の46.5%に及び、価格競争は一層熾烈な様相を呈しています。
 例年のように年末にかけて売上DIの回復はなく、1-3月期の見通しでは、売上・収益DIともに震災の影響を受けた23年6月期をさらに下回ると予想し、今後の業況悪化が懸念されます。

【受注価格・数量DIの推移】



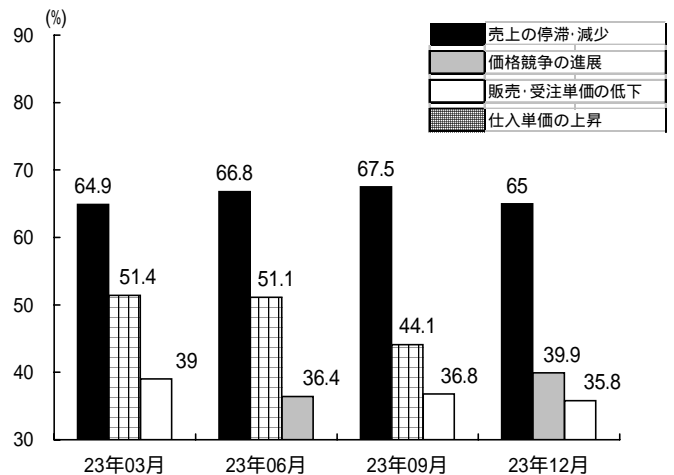
価格・数量DI回復するも、見通しは下落
 受注価格DIはマイナス6.2（前回比+2.7ポイント）、受注数量DIはマイナス6.5（前回比+3.1ポイント）となりました。平成24年1-3月期は、受注価格DIが3.0ポイント、受注数量DIは9.4ポイント下落すると予想しています。
 価格・数量DIともに9月期に比較して回復していますが、需要の縮小や価格引下要請もあり、1-3月期の見通しは両DIともに下落を予想しています。
 企業の一部には、火力発電用部品の受注増加により売上高が上向く企業もありますが、今後、業界全体では国内需要の低迷や、中国・欧州向け輸出が減少し、価格競争は一層激しくなることが懸念されます。

【設備投資】



9月比上向くも、依然低調な設備投資
 「実施中」が9.2%（前回比+1.9ポイント）で、「予定有り」は8.1%（前回比+0.8ポイント）となりました。「実施中」と「予定有り」の合計は17.3%です。
 企業の一部には、高い品質基準への対応や生産コスト抑制のため新しい機械を導入する企業や、消費者が電力からガスを選択する流れから受注が増加し、新しい工場建設予定地を探る大手ガス器具の下請企業など、設備投資意欲が旺盛な企業もあります。
 しかし、業界全体としては設備投資意欲を刺激するまでには至らず、設備投資意欲は依然低迷していると思われます。

【経営上の問題点】(複数回答)



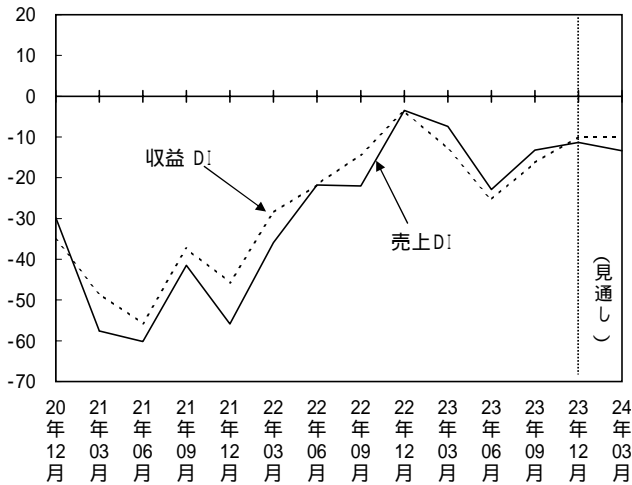
懸念される円の高騰
 第一位は「売上の停滞・減少」が65.0%、第二位「価格競争の進展」が39.9%、第三位「販売・受注単価の低下」が35.8%となりました。
 中国や欧州の景気が減速し、依然歴史的な円高は解消に向かわず、価格競争は一層進展し、少ないパイの奪い合いが続くなか、今後の売上高や収益の悪化が懸念されます。

(中小企業診断士：兵庫、井筒、小阪、楠)

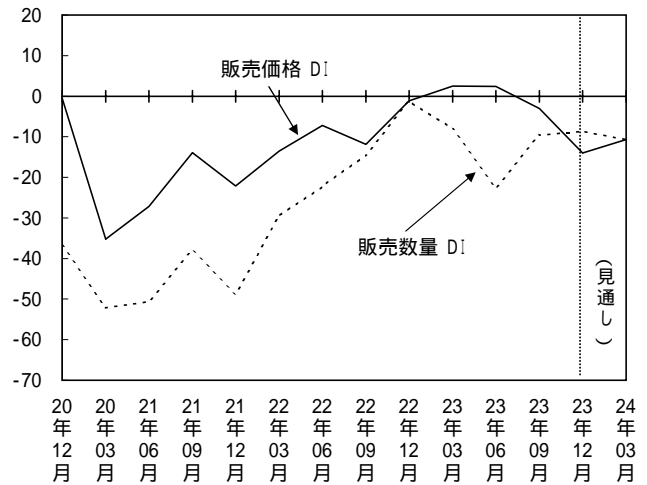
卸売業 (149社)

年末商戦でやや回復！価格下落・数量足踏み！

【売上受注・収益DIの推移】



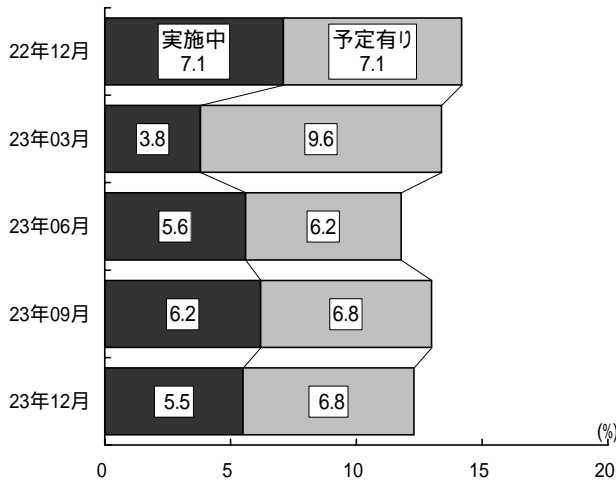
【販売価格・数量DIの推移】



売上・収益DIともに回復したが・・・
 売上DIはマイナス11.3（前回比+1.9ポイント）、収益DIはマイナス10.0（前回比+6.3ポイント）となり、売上・収益DIともに改善しました。
 平成24年1-3月期は、売上DIが2.1ポイント、収益DIが0.1ポイント下落すると予想しています。
 医療・健康関連卸売業では、どのドラッグストアに卸すかによって売上に大きな影響があるようです。
 また菓子製造卸売業の一部には、ドラッグストア内の食品販売が好調で売上高が増加する企業もあります。
 製造業・小売業・飲食業の業況が低調に推移するなか、卸売業でも売上DIの回復が伸び悩み、今後の見通しも低調に推移すると予想しています。

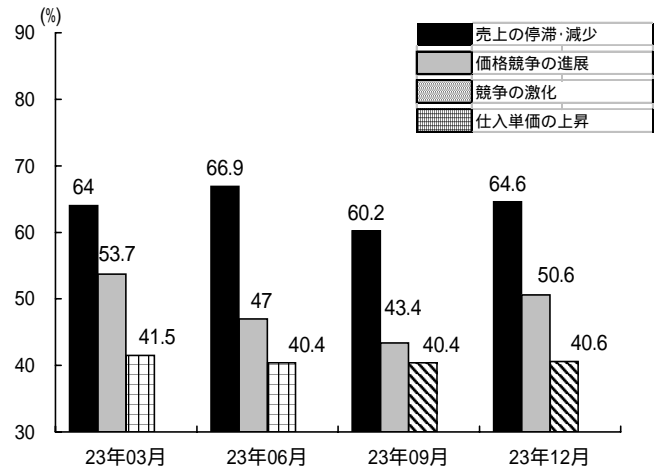
落ち込む販売価格DI
 販売価格DIはマイナス14.0（前回比-11.0ポイント）、販売数量DIはマイナス8.6（前回比+1.0ポイント）となりました。平成24年1-3月期は、販売価格DIが3.3ポイント上昇、販売数量DIが2.1ポイント下落すると予想しています。
 1-3月期見通しでは、販売価格DIは上昇を予想していますが、販売数量DIは下落を予想し、需要の低迷を背景に苦戦が予想されます。
 医療・健康関連卸売業では、アイテム数の増加にともないデッドストックが増加し資金ショートする企業があります。また、中東富裕層向けに宝飾品・服飾品を輸出する企業では、ブランド力のある日本製品への人気が根強く、販売価格は上昇しているようです。

【設備投資】



低空飛行の設備投資
 「実施中」が5.5%（前回比-0.7ポイント）、「予定有り」は6.8%（前回比±0.0ポイント）となり、「実施中」と「予定有り」の合計は12.3%です。
 依然、低調な設備投資の推移は変わりません。
 中小企業の来年の見通しが悪化するなか、当分は設備投資は回復しないと思われず。

【経営上の問題点】(複数回答)



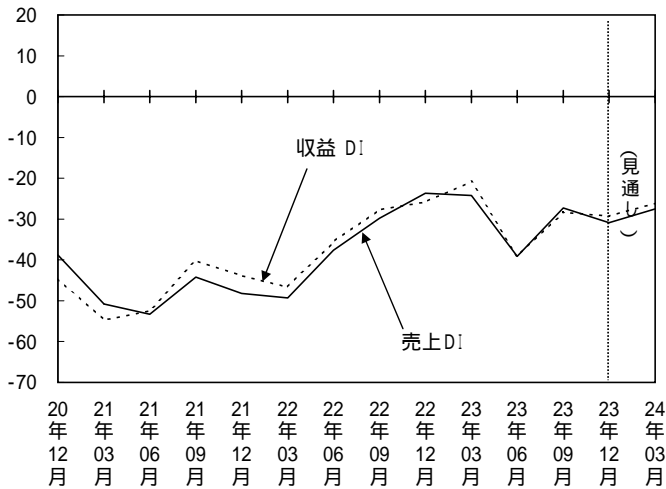
根強い「仕入単価の上昇」
 第一位は「売上の停滞・減少」で64.6%、第二位は「価格競争の進展」で50.6%、第三位は「競争の激化」で40.6%となりました。「価格競争の進展」が、再び大きな経営上の問題点として浮上しています。
 上昇傾向にあった中国製衣料関連の仕入価格は、中国経済の減速を受けてようやく安定しつつあります。
 国内・国際需要ともに低迷するなか、今後売上高の落ち込みが予想され、そのような中での価格競争の進展が収益を一層悪化させることが懸念されます

(中小企業診断士：畑、稲津、真下、嶋田)

小売業 (178社)

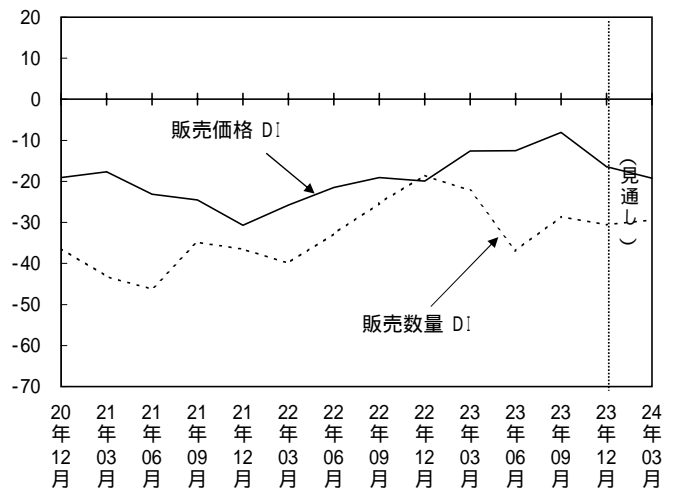
期待はずれの年末！ 価格・数量ともに低迷！

【売上受注・収益DIの推移】



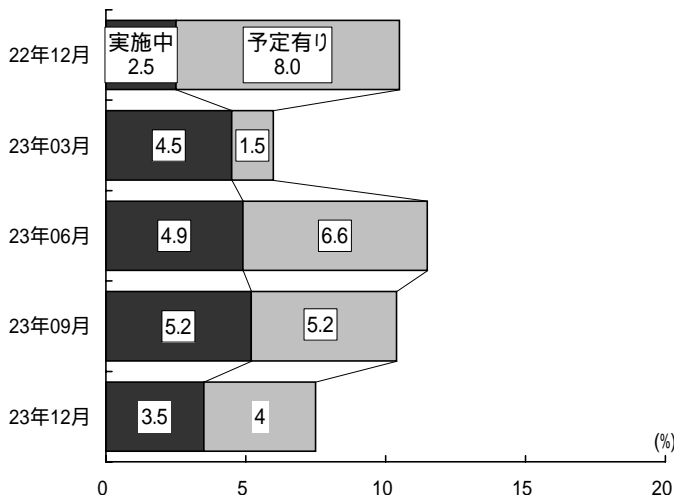
売上・収益DIともに悪化
 売上DIはマイナス30.9（前环比-3.6ポイント）、
 収益DIはマイナス29.2（前环比-0.9ポイント）となり
 売上DI・収益DIともに悪化しました。
 平成24年1-3月期は、売上DIが3.4ポイント、収益DIが3.1ポイント上昇すると予想しています。
 節電対策として毛布の購入や、冬將軍の到来とともにコート類の販売は上向き年末商戦に期待されましたが、大型ショッピングセンターに顧客を奪われ、小規模小売店では苦戦を強いられています。

【販売価格・数量DIの推移】



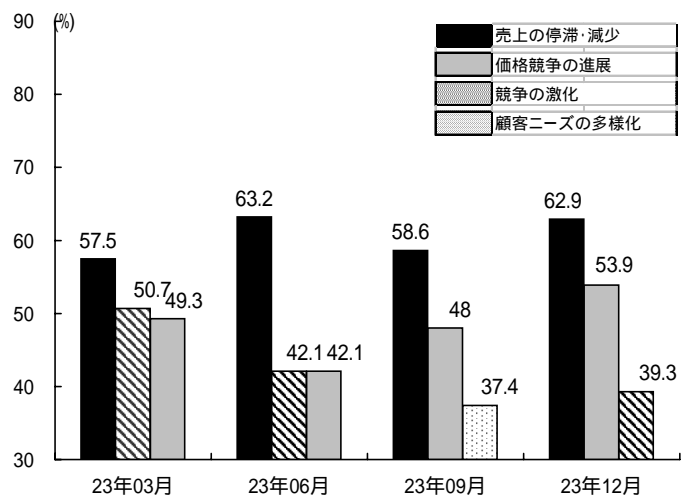
販売価格の下落傾向は鮮明に
 販売価格DIはマイナス16.4（前环比-8.3ポイント）、販売数量DIはマイナス30.5（前环比-1.9ポイント）となり、販売価格・販売数量DIともに悪化しました。平成24年1-3月期の見通しは、販売価格DIが2.8ポイント下落、販売数量DIが1.1ポイント上昇すると予想しています。
 昨年のエコポイント終了後反動が大きく、薄型テレビなどの家電販売店では、価格を値下げしても売れない状況です。また消費者は、インターネットで価格調査を行ってから商品を購入する傾向が見られます。
 価格競争が大きな経営上の問題点に浮上し、今後さらに販売価格が下落することが懸念されます。

【設備投資】



落ち込む設備投資
 「実施中」は3.5%（前环比-1.7ポイント）、「予定有り」は4.0%（前环比-1.2ポイント）で、「実施中」と「予定有り」の合計は7.5%となりました。
 9月期からさらに設備投資は下落しました。
 デフレは現在も進行し、景気の回復や自社の景況感に見通しが立たないなか、今後の設備投資も低調に推移すると思われます。

【経営上の問題点】(複数回答)



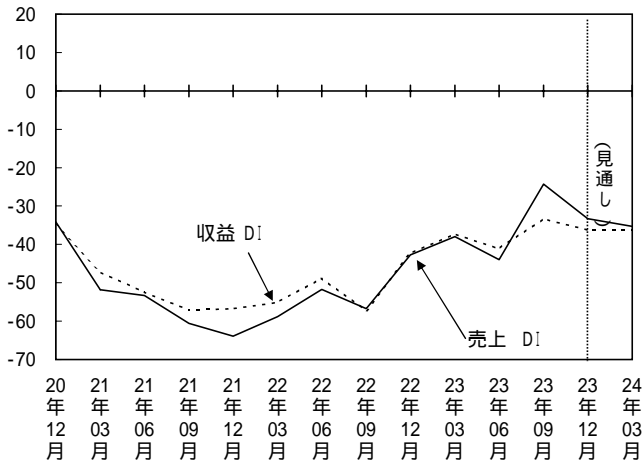
消費者マインド低迷
 第一位「売上の停滞・減少」が62.9%、第二位「価格競争の進展」が53.9%、第三位が「競争の激化」で39.3%となりました。
 消費者の購買単価は下落傾向にある上に、大規模小売店との競合が激化して「価格競争の進展」が経営上の問題点として大きく上昇しています。
 今後も中小小売業は、厳しい状況が続くと思われます。

(中小企業診断士：澤田、畑、宗和、金澤)

飲食業 (105社)

年末競合激化！！高まる消費者の要求水準！！

【売上受注・収益DIの推移】



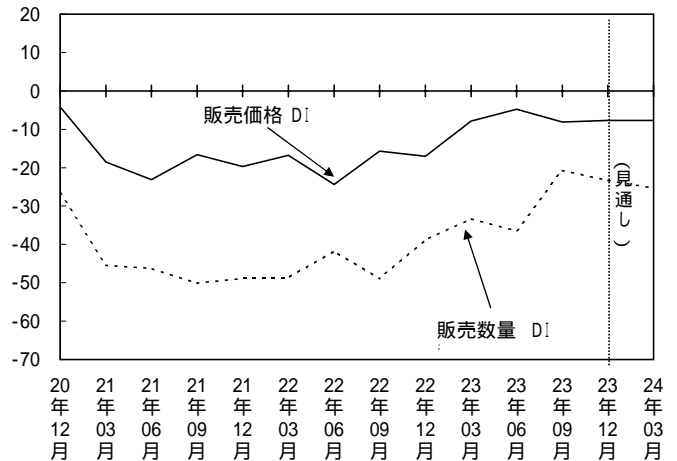
売上・収益DIともに悪化

売上DIがマイナス33.3(前回比-9.0ポイント)、収益DIがマイナス36.2(前回比-2.9ポイント)となり、売上・収益DIともに悪化しました。平成24年1-3月期は、売上DIが2.0ポイント下落、収益DIが±0.0ポイントと予想しています。

震災後、自粛ムードで景況感が悪化した飲食業は9月期に盛り返したものの、再び悪化傾向にあります。飲食業のなかには、ブログへの書き込みが多い先や、新聞・雑誌・地元紙などに取り上げられる懐かしい味を提供して売上が増加する店もあります。

しかし、業界全体としては景気の不透明感が漂うなか、今後も苦戦が予想されます。

【販売価格・数量DIの推移】



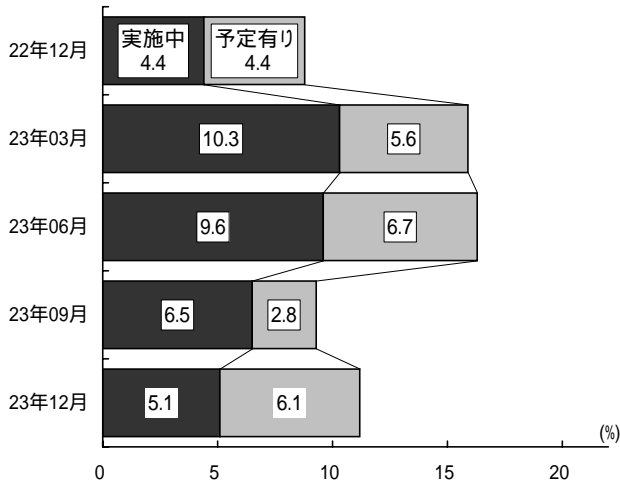
販売数量DI再び下落

販売価格DIはマイナス7.7(前回比+0.4ポイント)、販売数量DIはマイナス23.3(前回比-2.6ポイント)となり、販売価格DIはやや改善しました。平成24年1-3月期は、販売価格DIが±0.0ポイント、販売数量DIが2.0ポイント下落する見通しです。

全品同一価格での販売や、セット価格による販売、低価格な飲み放題プランによる販売など、他店との競合は激しくなっています。

国内景気の低迷が懸念されるなか、小規模飲食業界では、販売数量DIはさらに悪化が予想され、厳しい状況が続くと思われます。

【設備投資】



完全に冷え込んだ設備投資

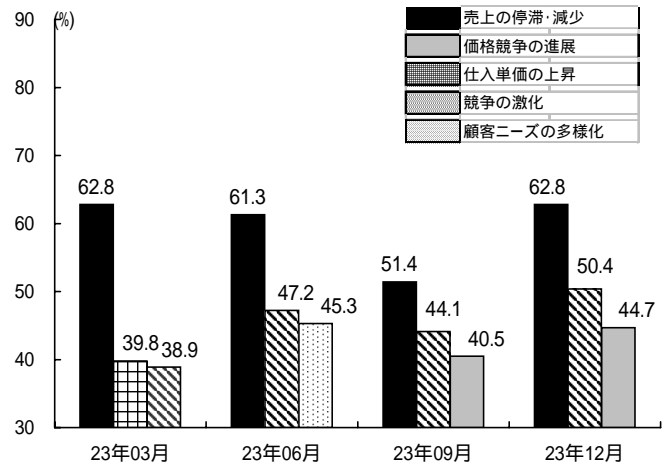
「実施中」は5.1%(前回比-1.4ポイント)、「予定有り」は6.1%(前回比+3.3ポイント)となりました。

「実施中」と「予定有り」の合計は11.2%です。

国内景気の低調推移が予想されるなか、更新などの設備投資に踏み切る企業もありますが、新規出店など初期投資が大きな設備投資には消極的です。

飲食業界では、しばらく設備投資は冷え込んだままに推移すると思われます。

【経営上の問題点】(複数回答)



食材価格の高騰と価格競争の狭み撃ち

第一位「売上の停滞・減少」が62.8%、第二位「競争の激化」が50.4%、第三位「価格競争の進展」が44.7%となりました。

飲食業では、味だけでなく価格面や店の雰囲気、設備、接客など全てにおいて、顧客ニーズは高くなっています。

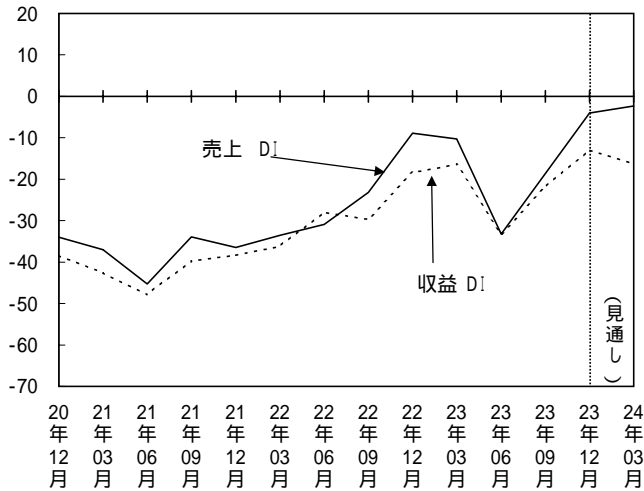
また、食材価格の上昇による収益の悪化や、大手チェーン店との競合により、業況は厳しさを増しています。

(中小企業診断士：兵庫、尾崎、中村、仲井、永井、澤田、吉田)

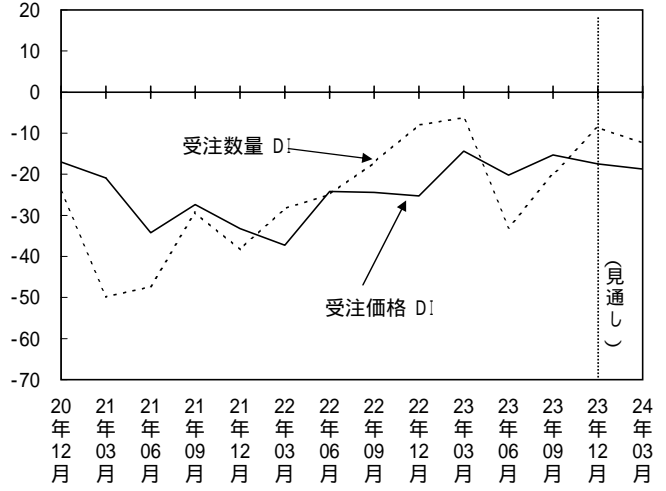
建設業 (178社)

売上・収益ともに回復基調！！ 回収条件悪化傾向！！

【売上受注・収益DIの推移】



【受注価格・数量DIの推移】



売上・収益DIともに回復

売上受注DIはマイナス4.0（前回比+14.6ポイント）、収益DIはマイナス12.9（前回比+9.0ポイント）となり、売上・収益DIともに大きく改善しました。平成24年1-3月期は、売上DIが1.7ポイント上昇、収益DIが3.4ポイント下落すると予想しています。

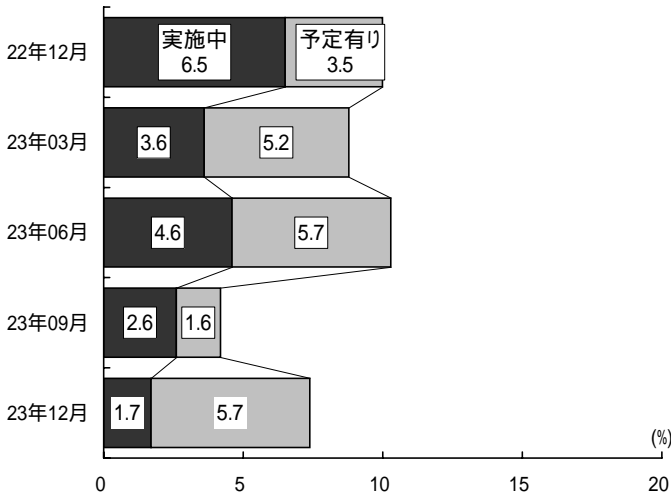
リフォーム受注は増加していますが、前払い金や中間金がなく最終一括払いとなるなど、売上回収条件は厳しくなっています。また、震災復興事業の本格的な実施により、人員獲得競争による人件費の高止まりなどが、関西の中小建築業にも及ぶことが考えられ、収益DIは下落すると考えられます。

売上DIの回復は受注数量DIが寄与

受注価格DIはマイナス17.5（前回比-2.2ポイント）、受注数量DIはマイナス8.6（前回比+11.4ポイント）となり、受注数量DIが大きく改善しました。平成24年1-3月期は、受注価格DIが1.2ポイント、受注数量DIが3.7ポイント下落すると予想しています。

震災後、受注数量DIが順調に回復基調にありますが、公共工事は減少傾向で、受注獲得競争による相見積もりも多く、価格競争による受注価格DIは下落傾向にあると考えられます。

【設備投資】

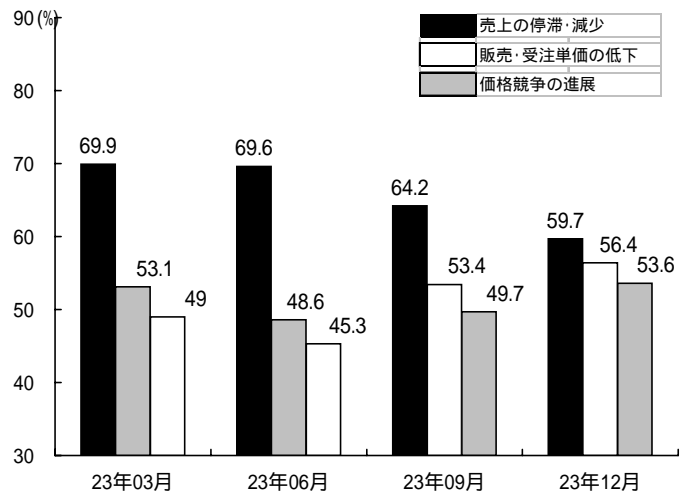


冷める設備投資意欲

「実施中」は1.7%（前回比-0.9ポイント）、「予定有り」は5.7%（前回比+4.1ポイント）で、「実施中」と「予定有り」の合計は7.4%です。

建設業の売上DIは回復基調が続きますが、利益確保は難しいため、設備は壊れるまで使用し必要なものしか設備投資を行わない傾向にあり、設備投資意欲は今後も低調に推移すると思われる。

【経営上の問題点】（複数回答）



根強い問題点「販売・受注単価の低下」

第一位「売上の停滞・減少」が59.7%、第二位「販売・受注単価の低下」が56.4%、第三位「価格競争の進展」が53.6%となりました。

受注獲得競争の激化や相見積もりの増加にともない、「販売・受注単価の低下」や「価格競争の進展」が大きな経営上の問題点として浮上しました。

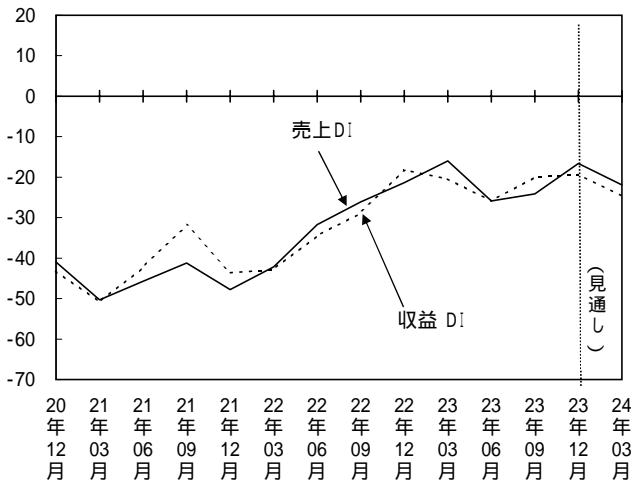
震災復興需要は、関西にどの程度影響を与えるかは今のところ不明ですが、固定費の上昇傾向は関西に及ぶことも考えられ、収益の悪化が懸念されます。

（中小企業診断士：小林、井筒、宗和）

サービス業 (186社)

景況感上向く！！介護ビジネスで進む二極化！

【売上受注・収益DIの推移】



売上・収益DIともに微増

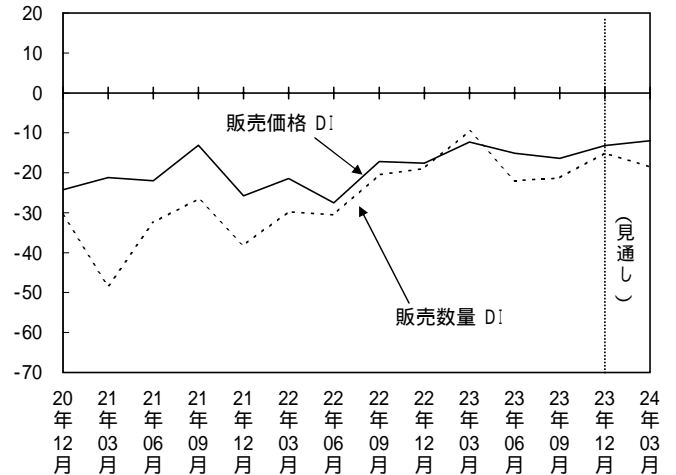
売上DIはマイナス16.6（前回比+7.5ポイント）、収益DIはマイナス19.3（前回比+0.7ポイント）となり、売上・収益DIともに改善しました。平成24年1-3月期は、売上DIが5.3ポイント、収益DIが5.3ポイント下落すると予想しています。

介護サービスでは、競争が激しく新規顧客の獲得は困難になりつつあります。また、産業廃棄物処理業では、国内で不要なペットボトルなどを仕入れて中国向けに販売して売上高が増加する企業があります。

クリーニング業では、12月に冬将軍の到来とともに冬物への衣替えが進み売上高は上向きそうです。

しかし、サービス業全体では売上DI・収益DIともに回復基調にあるものの力強さに欠けます。

【販売価格・数量DIの推移】



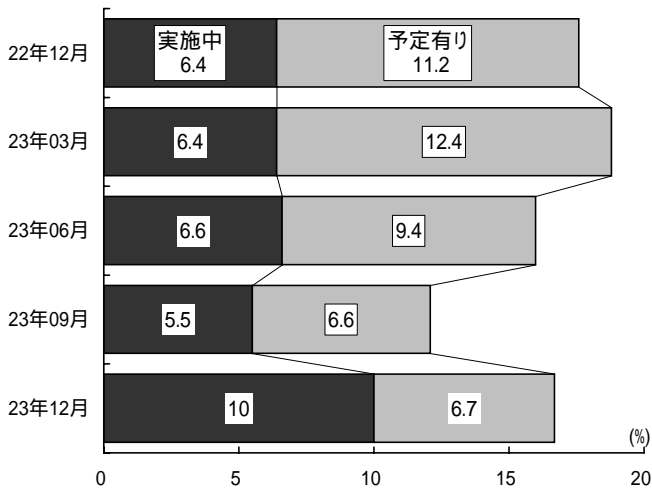
価格・数量DIはほぼ横ばい

販売価格DIはマイナス13.2（前回比+3.2ポイント）、販売数量DIはマイナス15.0（前回比+6.3ポイント）となりました。主に、販売数量の上昇が売上高を支えています。平成24年1-3月期は、販売価格DIが1.2ポイント上昇、販売数量DIが3.5ポイント下落すると予想しています。

価格競争などの同業者間の競争は、激しさを増し、1-3月期への見通しでは、再び販売数量の減少を予想しています。

自動車整備業では、価格競争が激しく持込台数の減少が続いています。景気の先行きへの不安から、消費者の節約・儉約志向は根強く、今後も厳しい状況が予想されます。

【設備投資】



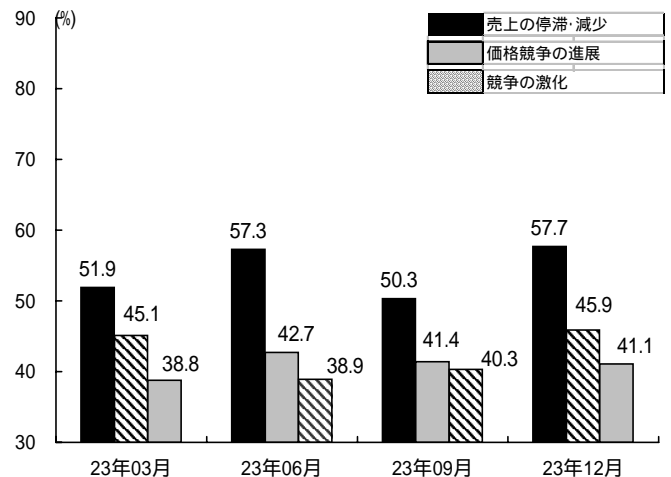
冷え込む設備投資

「実施中」が10.0%（前回比+4.5ポイント）、「予定有り」が6.7%（前回比+0.1ポイント）となり、「実施中」と「予定あり」の合計は16.7%となりました。

9月期に比較して、設備投資は上向きましたが設備投資意欲を刺激するまでには至りません。

売上や収益の先行きへの見通しが暗いなか、設備投資意欲が回復するにはしばらく時間が必要です。

【経営上の問題点】(複数回答)



続く節約志向

第一位は「売上の停滞・減少」が57.7%、第二位は「競争の激化」が45.9%、第三位は「価格競争の進展」が41.1%となりました。

先行きの見通しが立たないなか、少ないパイの奪い合いとなっています。比較的元気な介護ビジネス業界でも、業績が上昇するところと下降するところの二極化が進んでいます。

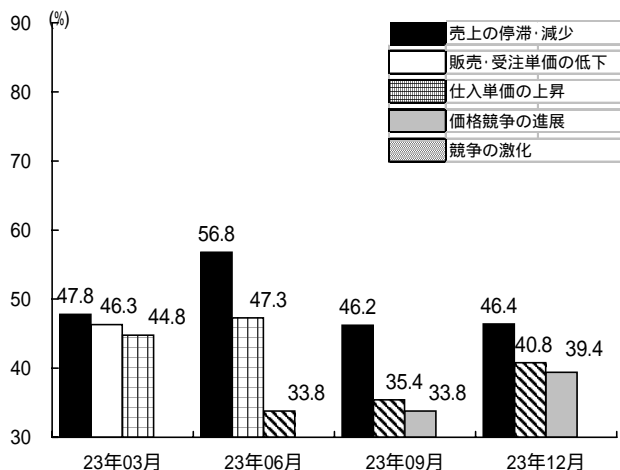
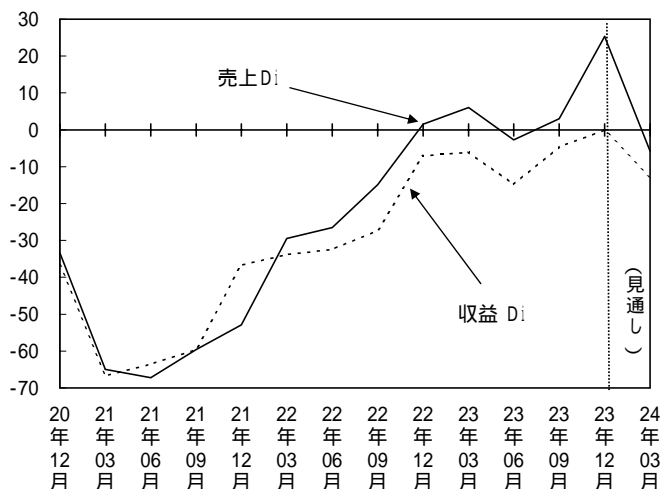
(中小企業診断士：尾崎、竹並、金澤、嶋田)

運輸業 (71社)

物流量増加！！採算度外視の受注もあり！？

【売上受注・収益DIの推移】

【経営上の問題点】(複数回答)



売上DI・収益DIともに回復
 売上受注DIがプラス25.3(前回比+22.3ポイント)、収益DIが±0.0(前回比+4.6ポイント)と売上受注DIが大きく改善しました。
 平成24年1-3月期は、売上DIが31.1ポイント、収益DIが12.8ポイント下落すると予想しています。
 運送業では、取扱う商品によって売上に波があり、鉄関連の運送業では売上高が増加しています。
 しかし、売上増加の背景には採算度外視の受注も多いようです。

進む二極化
 第一位「売上の停滞・減少」が46.4%、第二位は「競争の激化」が40.8%、第三位は「価格競争の進展」が39.4%と続きます。
 価格競争などにより、同業者間の競争は熾烈になってます。震災復興とともない物流市場の回復が見込めますが、今後の景況感に不透明感が漂うなか、同業者間で二極化が進むと思われます。

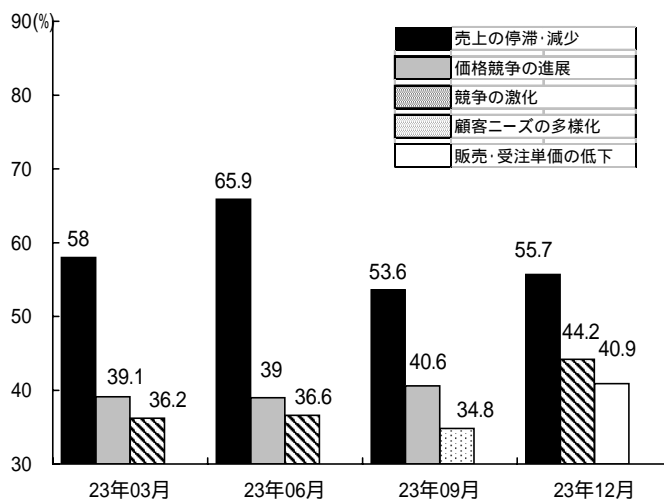
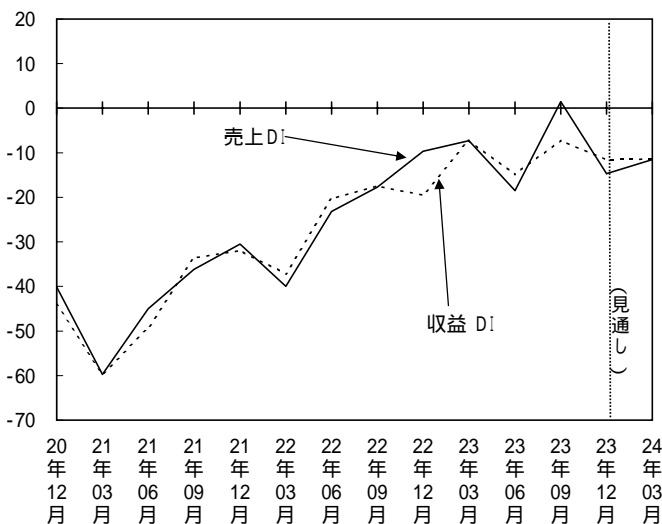
(中小企業診断士：小林、真下)

不動産業 (61社)

折合わない立地条件と価格！減少する収益物件！

【売上受注・収益DIの推移】

【経営上の問題点】(複数回答)



小型物件に動きあり、が少ない取引件数
 売上DIはマイナス14.7(前回比-16.2ポイント)、収益DIはマイナス11.5(前回比-4.3ポイント)となり、売上・収益DIともに悪化しました。平成24年1-3月期は、売上DIが3.2ポイント、収益DIは0.1ポイント上昇すると予想しています。
 収益ビルやマンションでは、利回りが高い物件が不足し、取引量も少なくなっています。
 戸建住宅の販売の動きも鈍く、当面物件の売買は低調に推移すると思われます。

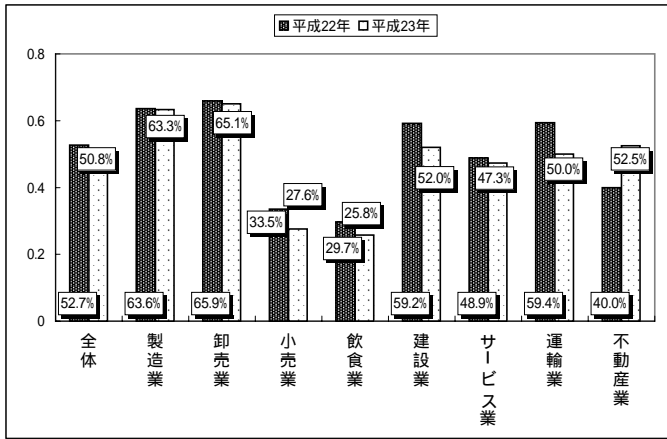
多様化するニーズ
 第一位「売上の停滞・減少」が55.7%、第二位は「競争の激化」が44.2%、第三位は「販売・受注単価の低下」が40.9%となりました。
 少ない流通物件を同業者間で奪い合うも、立地条件や販売価格が折り合わず、売買に至らないケースが増加しています。

(中小企業診断士：中村、仲井、宗和、小倉、竹並)

冬季賞与支給状況 (1,249社)

厳冬続く！！支給率・支給額ともに減少！！

冬季賞与を支給する企業の割合(業種別)



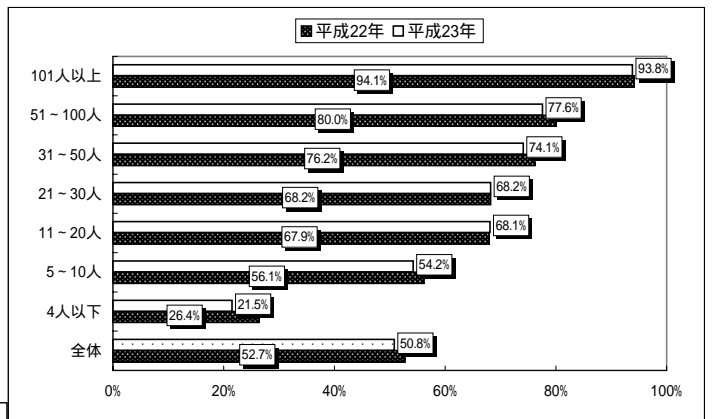
賞与支給状況(従業員規模別)

従業員規模別では、従業員規模が大きくなるに伴い支給率が高くなる傾向があります。全体では支給率が50.8%となり、前年比1.9ポイント下落しています。支給率が最も高かったのは、「101人以上」の93.8%（前年比 - 0.3ポイント）で、最も低かったのは「4人以下」の21.5%（前年比 - 4.9ポイント）となりました。支給率が前年比上昇したのは「11～20人」で、68.1%（前年比0.2ポイント）でしたが、それ以外の従業員規模別の支給率は全て前年比下落しました。

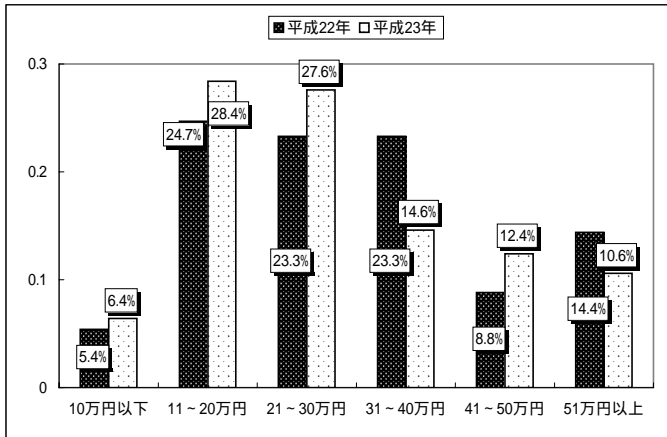
賞与支給状況(業種別)

賞与支給状況は、全業種平均50.8%（前年比 - 1.9ポイント）でした。ほとんどの業種が、支給率が対前年比下落するなか、不動産業だけが52.5%（前年比 + 12.5ポイント）と上昇しました。支給率が最も低かった業種は、飲食業の25.8%で、小売業の27.6%、サービス業の47.3%と続きます。中小企業は、国内需要の低迷、復興計画の遅延、円高、欧州危機、消費税引上げなど景気の先行きに不透明感が漂うなか、冬季賞与の支給率が下落しました。

冬季賞与を支給する企業の割合(従業員規模別)



賞与支給の支給金額階層別グラフ



賞与支給金額

賞与支給金額は、11～20万円が28.4%（前年比 + 3.7ポイント）で最も高くなり、次に高い割合は、21～30万円が27.6%（前年比 + 4.3ポイント）となりました。最も支給率が低いのは、10万円以下の、6.4%（前年比 + 1.0ポイント）となりました。支給金額別では、11～20万円、21～30万円、41～50万円で、前年比上昇しました。冬季賞与支給額は、30万円以下で6割を占めています。

業種別平均賞与支給金額

全業種平均支給額は、242,606円で、対前期比16,717円の減少となりました。業種別では、飲食業が180,714円で39,911円と大幅に減少したほか、不動産業でも252,417円で、37,983円の減少です。比較的支給率が高い卸売業や製造業、不動産業では、支給を維持するために支給額をカットしていることが分かります。平均賞与支給額は、業種間でバラツキが見られますが、全体では前年比 - 16,717円となり、支給額は減少傾向にあります。

業種別平均賞与支給金額

